

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和6年7月30日(2024.7.30)

【公開番号】特開2022-27513(P2022-27513A)

【公開日】令和4年2月10日(2022.2.10)

【年通号数】公開公報(特許)2022-025

【出願番号】特願2021-112822(P2021-112822)

【国際特許分類】

C 0 7 K 7/06(2006.01)

C 0 7 K 16/18(2006.01)

A 6 1 K 38/08(2019.01)

A 6 1 K 39/395(2006.01)

A 6 1 P 25/00(2006.01)

A 6 1 P 25/16(2006.01)

A 6 1 P 25/28(2006.01)

C 1 2 N 15/12(2006.01)

10

【F I】

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 16/18 Z N A

A 6 1 K 38/08

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 25/28

C 1 2 N 15/12

20

【手続補正書】

【提出日】令和6年7月19日(2024.7.19)

30

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の(i)、(ii)、又は(iii)で表されるペプチド：

(i) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有し、アミノ酸の長さが13以下であるペプチド。

40

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

(ii) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有し、X1がF若しくはWであり、かつX2がY、F又はWであるか、又はX1がYであり、かつX2がF又はWであるペプチド。

(iii) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有し、前記アミノ酸配列のX1及びX2を除くアミノ酸部位において1若しくは数個が欠失、若しくは置換されたアミノ酸配列を有し、かつFABP3タンパク質と結合する活性を有するペプチド。

【請求項2】

EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列のみからなるペプチド。

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

50

【請求項 3】

前記(ii)のペプチドであって、アミノ酸の長さが30以下である請求項1に記載のペプチド。

【請求項 4】

X1及びX2のアミノ酸のフェニル基と、天然型FABP3タンパク質のアミノ酸配列における第16番目のフェニルアラニンのフェニル基との相互作用を介してFABP3と結合する請求項1～3のいずれか一項に記載のペプチド。

【請求項 5】

請求項1～3のいずれか一項に記載のペプチドを有効成分として含むシヌクレイノパチーの予防又は治療のための予防又は治療剤。

10

【請求項 6】

前記シヌクレイノパチーが、パーキンソン病、レビー小体病、及び多系統萎縮症からなる群から選択される請求項5に記載の予防又は治療剤。

【請求項 7】

シヌクレイノパチーの予防又は治療のための、請求項1～3のいずれか一項に記載のペプチドを含む医薬組成物。

【請求項 8】

以下の(i)又は(ii)で表されるペプチドを含む、シヌクレインとFABP3の相互作用の阻害剤。

(i) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有するペプチド

20

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

(ii) 前記(i)のアミノ酸配列のX1及びX2を除くアミノ酸部位において1若しくは数個が欠失、置換若しくは付加されたアミノ酸配列を有し、かつFABP3タンパク質と結合する活性を有するペプチド

【請求項 9】

以下の(i)又は(ii)で表されるペプチドを含む、ドパミン神経細胞へのシヌクレインの取り込み阻害剤。

(i) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有するペプチド

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

(ii) 前記(i)のアミノ酸配列のX1及びX2を除くアミノ酸部位において1若しくは数個が欠失、置換若しくは付加されたアミノ酸配列を有し、かつFABP3タンパク質と結合する活性を有するペプチド

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

項1. 以下の(i)、(ii)、又は(iii)で表されるペプチド：

(i) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有し、アミノ酸の長さが13以下であるペプチド。

40

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

(ii) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有し、X1がF若しくはWであり、かつX2がY、F又はWであるか、又はX1がYであり、かつX2がF又はWであるペプチド。

(iii) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有し、前記アミノ酸配列のX1及びX2を除くアミノ酸部位において1若しくは数個が欠失、若しくは置換されたアミノ酸配列を有し、かつFABP3タンパク質と結合する活性を有するペプチド。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

50

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

項 2 . EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列のみからなるペプチド。 (式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

項 3 . 前記(ii)のペプチドであって、アミノ酸の長さが30以下である項1に記載のペプチド。

項 4 . X1及びX2のアミノ酸のフェニル基と、天然型FABP3タンパク質のアミノ酸配列における第16番目のフェニルアラニンのフェニル基との相互作用を介してFABP3と結合する項1～3のいずれか一項に記載のペプチド。

10

【手続補正4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 5 】

項 5 . 項1～3のいずれか一項に記載のペプチドを有効成分として含むシヌクレイノパチーの予防又は治療のための予防又は治療剤。

【手続補正5】

20

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

項 6 . 前記シヌクレイノパチーが、パーキンソン病、レビー小体病、及び多系統萎縮症からなる群から選択される項7に記載の予防又は治療剤。

【手続補正6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 7 】

30

項 7 . シヌクレイノパチーの予防又は治療のための、項1又は2に記載のペプチド又は項3に記載の抗体を含む医薬組成物。

【手続補正7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

40

項 8 . 以下の(i)又は(ii)で表されるペプチドを含む、シヌクレインとFABP3の相互作用の阻害剤。

(i) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有するペプチド

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

(ii) 前記(i)のアミノ酸配列のX1及びX2を除くアミノ酸部位において1若しくは数個が欠失、置換若しくは付加されたアミノ酸配列を有し、かつFABP3タンパク質と結合する活性を有するペプチド

項 9 . 以下の(i)又は(ii)で表されるペプチドを含む、ドパミン神経細胞へのシヌクレインの取り込み阻害剤。

50

(i) EEG(X1)QD(X2)EPEAで表されるアミノ酸配列を有するペプチド

(式中、X1及びX2は、同一又は異なって、Y、F又はWである)

(ii) 前記 (i) のアミノ酸配列のX1及びX2を除くアミノ酸部位において1若しくは数個が欠失、置換若しくは付加されたアミノ酸配列を有し、かつFABP3タンパク質と結合する活性を有するペプチド

10

20

30

40

50